

10月17日は「貯蓄の日」
捨てるより活かす工夫が生む貯蓄
新潟県貯蓄推進委員会

新潟県

公民館月報

昭和56年9月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟(0252)24-6073】【振替新潟4049】

発行人 会長 石井耕一
編集人 事務局長 本田 洋

【定価1部 90円 年共・年価 1,080円】



水科古墳公園

三和村水科古墳は七世紀初頭を前後する時代のものと推定されるが、この古墳と出土した須恵器の破片約一、〇〇〇点、勾玉刀子、ガラス玉、水昌王金銀環、直刀長頸壺、高杯等多くの副葬品は古代を語る価値高い学術資料として、昭和五十一年五月文部省より国の文化財の指定を受けた。

総面積は一〇、五三二㎡であって、大小三十四基の古墳群がある。中には石室の長さ一m巾三十㎝という全国でも珍しいミニ古墳も含まれている。

古墳は円形の墳丘をもつ横穴式で石室の前庭部に柱穴のある古墳も発見された。飛鳥白鳳の古代より三和の古墳文化がこのようにひらけていたことは実に意義深い。

南に妙高の秀嶺を過ぎ北に米山の雄姿を望む風光明媚な飯田川の扇状地に、この華い史跡を現代に生かし後世に伝え、青少年や一般住民の生きた教材として、歴史を学ぶ楽しさと強い動機づけに活用し、ひいては心のよりどころとして郷土愛育成の源泉としたい。

絵、文 保坂 幸雄

(三和村文化財調査委員長)

三条市で第32回県公民館大会

意識改革必要な八〇年代

記念講演

「爆発する宇宙」に触発される

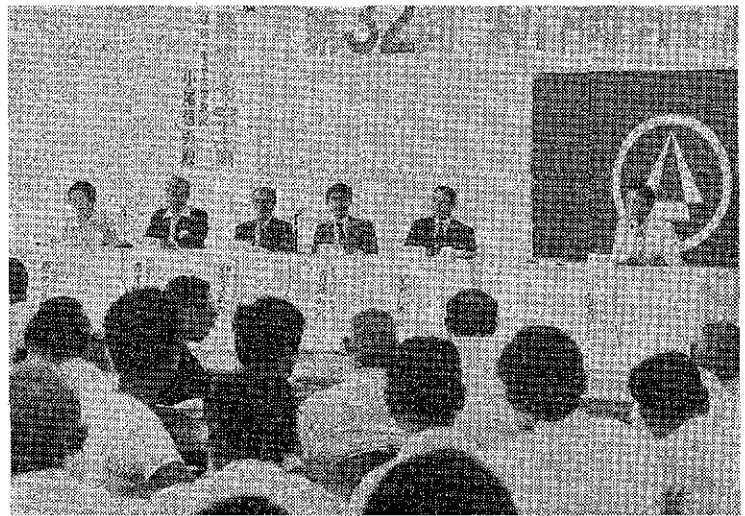


机に向って情報交換もできた主会場

第三十二回を迎えた、ことしの県公民館大会は、さる八月二十一日、三条市体育文化センターで、総勢六百名を集めて開催された。

「九〇年代の公民館の経営、活動はどうあるべきか」をテーマとし、まずはじめに天体物理学の権威、小屋信弥東大教授による「爆発する宇宙」と題しての記念講演を聞き、午後は講師五名によるパネルディスカッションとスピーディにすすみ、即日盛会のうちに幕を閉じた。

開会式は、中越公達会会長青木昭を、地球も爆発によって生まれ治氏による方づよい大公開宣言と公民館の歌着唱によりはじまった。泉公達会長行五耕一氏と泉社教育部長井上明俊氏(倫教育長代理)による主催者あいさつ。つづいて表彰式、優良公民館として柏崎市北条公民館、公民館運営委員ならびに非活動職員など十七名に対し石井会長から表彰状を記念品が贈られた。泉公達事務局長による来賓紹介と初電披露、地元三条市長瀧沢賢太郎氏による歓迎のこぼとつづいた。このあとだに東大教授小尾信弥先生による「爆発する宇宙」と題しての記念講演を聞く。内容は、近代的な天文学の成果から、宇宙の生成と天体の爆発現象やブラックホールなどの吸収圧縮現象などに焦点



BSN対問アナの進行でパネルディスカッション

を食いとめられなくすれば、人間は宇宙にでも住まなければならない。いかなる時代がくる。実際にそういう時代は近づいており、地球の今後の二十年間は、過去の四十年間よりも「そう大きく変わるであろう。」とするもので、現代人の宇宙観、世界観に大きく影響する内容であった。八十年代の新しい時代に向けて、深い未知と懸念を覚えられ、宇宙活動に組むものとする公民館にとって、触発されるものが多かったというべきであろう。

BSN対問アナの進行でパネルディスカッションは、谷市長星野行男氏、新潟大学助教授斎藤勉氏が登壇、それぞれの立場からの問題提起、参加者からの積極的な質疑、それに対する応答と活発にすすみ、司会者のBSNアナウンサー対問要任氏が「八〇年代は天へんな時代」のよう、お互いに意識の改革が必要でしう。」と締めくくった。(詳細は次号)

午後、講師五名によるパネルディスカッション。県社会教育協会主席吉津勝栄氏、三条市社会教育委員原マツ子氏、新潟市中央公民

弥彦村公民館

新生公民館繁盛記

(10)

芸術文化活動の殿堂

十三学級七人の侍が守る

急激な経済成長は、人びとに所得の増大や生活の高度化をもたらし、反面自然環境や生活環境の破壊とともに人間疎外などさまざまな副作用の荒廃をもたらした。

このような人間生活をとりまき、現実が地域社会や、生活のありかたに対する反対の声となり、真の豊かさをいかにかという真剣な関

いかけが行われ、生業をおして人間性回復の声が高まってきてい

る。このような脅威に順応するた

め、越後文化発祥の地として、輝かしい歴史と伝統をもったこの郷

土に誇りをもち、「心と体をきたえ健康で活力ある明るく家族づく

り」を基調として、文化発祥の地

にふさわしい芸術文化の殿堂を併

設けた。

公民館建設を構想して、昭和五十二年八月着手以来、一年三万

月の歳月と、総事業費二億二千

万円を投じて完成したものである。

弥彦神社外苑の行田山台地に依然とすわる「チュレイト」ブランドの

巨級は露峰弥彦山、背後の広大な

越後平野に力いっぱい調和し、芸術文化の殿堂としてふさわし

いである。

施設は館長以下七名で、文化庁

職員は館長以下七名で、文化庁

移動芸術祭を始め、青年講座など

十三の文化学級や、夜間の図書室

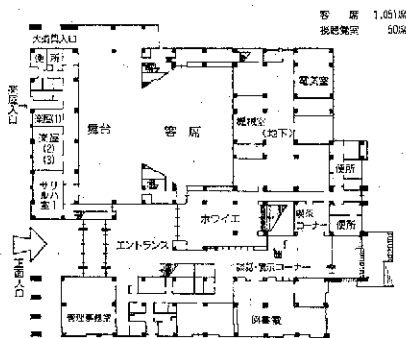
開放などの活動を展開している。

(弥彦村公民館長・藤原 清)

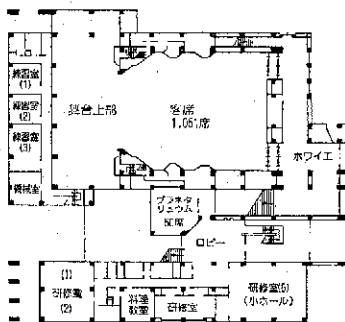
公民館は花ざかり、一月号からこれまでにすでに十七館の新築公民館が登場。これからもどしどしご紹介していきます。

平面図

(1階)



(2階)



公民館関係法令・解説

公民館長・公民館主事・公民館職員・公民館運営審議会委員・社会教育主事・社会教育委員・教育委員会関係者・公民館を利用する人・社会教育関係団体関係者等の必携の書として広く活用されています。

◎内容

教育基本法・社会教育法・社会教育法施行令・公民館の設置及び運営に関する基準規程・通達「公民館基準の取扱いについて」解説つき。

A 5判34ページ 1部 250円(送料実費)

◎お申し込み先

〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内
県公民館連合会事務局 電話 0252(24)6073

あの頃のこと



杉野 誠治

(1) 草創期の公民館活動

しつ図書館、公会堂、町民集会所等の設置計画が進捗し、その実現を見つつあるものも少なくない。このようにして、公民館の看板

新井町(現 新井市)に公民館が設置されたのは、昭和二十四年六月二十九日であった。設置までの経緯の詳細は分らないが、五月十三日新井町役場に、学校長、町内会長、婦人会長、青年会長等が招集され「公民館運動実施準備会」を置いて決定した。公民館の設置が提起されたのは昭和二十一年頃で、昭和二十一年七月五日付の文部次官通牒は、「国民の教養を高めて、道徳的知識並に政治的水準を引上げ、また町村自治体は民主主義の實際的訓練を受けることも、科学思想を普及して、平和産業を振興するを要す」として、新日本建設のため最も重要な問題と考えられるが、この要請に応ずるために、地方において社会教育の中核機関として図書館、公会堂、町民集会所等の設置計画が進捗し、その実現を見つつあるものも少なくない。このようにして、公民館の看板

新井町(現 新井市)に公民館が設置されたのは、昭和二十四年六月二十九日であった。設置までの経緯の詳細は分らないが、五月十三日新井町役場に、学校長、町内会長、婦人会長、青年会長等が招集され「公民館運動実施準備会」を置いて決定した。公民館の設置が提起されたのは昭和二十一年頃で、昭和二十一年七月五日付の文部次官通牒は、「国民の教養を高めて、道徳的知識並に政治的水準を引上げ、また町村自治体は民主主義の實際的訓練を受けることも、科学思想を普及して、平和産業を振興するを要す」として、新日本建設のため最も重要な問題と考えられるが、この要請に応ずるために、地方において社会教育の中核機関として図書館、公会堂、町民集会所等の設置計画が進捗し、その実現を見つつあるものも少なくない。このようにして、公民館の看板

付で、次の文書を町村長宛に通知している。「民主日本建設の要となるべき公民館の使命は益々重大となって来ましたが、今般特に軍政部から一段と之が重要性を強調され、その育成並びに設置促進に努力すべきである旨要請されたので、之が望望に承るべく共に新日本建設の自主的態勢を強化するの要切なるものある現況の情勢を御察の上別紙提案案内」に準拠し、早急に之が実現に努められたる通牒を承ります。」

良書紹介

公民館運営一問一答集

佐々木 実著

公民館の管理と運営に関する100の質問に答える。関係者待望の書!

- 内容
第1章……公民館への期待
第2章……公民館の行う事業
第3章……公民館のリーダー養成
第4章……公民館のユニティづくり
第5章……公民館施設の管理運営
第6章……公民館職員の職務
第7章……公民館運営審議会の役割
第8章……公民館と関連機関との関係

A5判 288頁
価格 1,700円(送料別)
申し込み先 県公連事務局
TEL 0252-24-6073

公民館の経営評価
事業評価の視点と方法

著者・岡本 包治(立教大学教授)
朝比奈 博(全公連理事)

公民館長・主事をはじめ社会教育関係者必読!!
公民館の事業や、その活動がどう行われ、どう評価されているかをおおそかにしているケースが多く見受けられます。
本書は、事業内容を四つの構造でとらえ、そのスケールの中で自己診断し、図案化してみました。
館長、主事のみならず是非ご活用していただきたいものです。

A5判 214頁
価格 2,100円(送料共)
申し込み先 県公連事務局

筆者紹介
昭和二十六年、新聞記者をやめて公民館主事となり従軍無忌に活躍した著者だ。昭和三十六年度には「県公民館誌」の編集委員としても活躍。本年新井市監査委員事務局長を最後に新井市を退職、現在は悠々自適。

いとも公民館というものを住民から知ってもらわなければならなかった。公民館の真価を重視して行われた。この間も限定的な無忌に活躍した著者だ。昭和三十六年度には「県公民館誌」の編集委員としても活躍。本年新井市監査委員事務局長を最後に新井市を退職、現在は悠々自適。

あとかぎ
毎号、本紙に格調の高い「詩」を連載していた浅間勝徳氏(越谷市在住)が、こんど「証言」という詩集を出版されました。おめでとうございます。
浅間さんは、本県安田町の御出身で元陸軍飛行隊士官、戦後は糸魚川市公民館長として活躍、現在は信用交際所理事(本社)に勤務されています。
この詩集は、自他ともに生をかけたものであられることなりのひだの、深い戦争の傷痕をうたったものです。御希望の方に贈呈します。お申し出をください。(木)